

事例3 第1学年 内容項目：B 相互理解、寛容

- ・アンケートを用いた問題意識を高める導入
- ・意見交換をしやすい座席の配置
- ・自分の考えを整理して書く活動
- ・ねらいとする道徳的価値についての考えを明確にさせる問い返し
- ・自分を見つめる書く活動

1 主題名 立場の違いを受け入れる

2 ねらい 立場の違い考え方について話し合うことを通して、寛容な心で理解し合うことの大切さに気づき、謙虚に他者から学んでいこうとする態度を育てる。

教材名 「言葉の向こうに」(出典：「私たちの道徳」 文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」に関するものである。

他者とよりよい関係を築いていくには、様々な物事について自分の考えや意見を適切に発信するとともに、それぞれのものの見方や考え方には違いがあり、互いに尊重することが大切である。人間は他者との関わりの中で具体的に話し合ってみないと、自分の考えの狭さに気付くことができない。そこで、自分のものの見方や考え方を広げていくために、寛容な心をもって他者から謙虚に学び、自己を高めていくことが求められる。

指導に当たっては、互いに理解し合い、他者の意見を認めて素直に受け入れる姿勢が大切であることに気付くことができるようにする。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、学級活動を中心に様々な学習の中で話し合い活動を行うことを通して、自分の意見を発表し、また友達の意見を聞きながら、互いの意見のよいところを認め合い、折り合いをつけようとする姿勢が見られるようになってきた。道徳科においても、友達の意見と自分の意見を比べ、新しい考え方をもつことができるようになり、そのことに喜びを感じている生徒が見られる。

一方、日常生活では、対人関係において他者の立場を考えず、自分のことを優先してしまう場面が見られる。また、SNSでのやり取りから他者とのトラブルが起きてしまうこともある。そのため本時を通して、相互理解の大切や謙虚な姿勢で他に学ぶ寛容な心をもつことの大切さを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材では、サッカーのファン交流サイトの書き込み内容について葛藤する主人公加奈子が描かれている。ヨーロッパのサッカーチームに所属するA選手への心無い書き込みに対して、加奈子もひどい言葉で応酬してしまう。そのやりとりを見た別のファンからの言葉により、加奈子は周りの人の立場を考えずにいた自分自身に気付くことができた。この教材は、生徒の日常にも起こりうる出来事であり、自分との関わりで捉え考えることができる教材である。

主に、次の場面を基に話し合うことにする。

①選手の悪口に対して、加奈子が必死で反論する場面

ファンと楽しく交流したいと思っていたのに、A選手を悪く言う人たちを許せないという加奈子の気持ちについて考えさせる。

②同じファンの人から注意され、加奈子がショックを受けている場面

仲間だと思っていた人たちに、思いもしないことを言われた加奈子の気持ちについて考えさせる。

③ファンの人からの意見を聞いて、加奈子が新しい価値観を手に入れた場面

相手の立場を考え、他者から学び、広い心で自分自身の価値観を広げようとしている加奈子の気持ちについて考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 立場や考え方が違うことで起こるトラブルについてのアン	・自分と反対の考えの人が多くて驚いた。 ・反対の人の考えを聞いてみたい。	・生活の中で起こるトラブルを想起させながら、ねらいとする道徳的価値について問題意識を

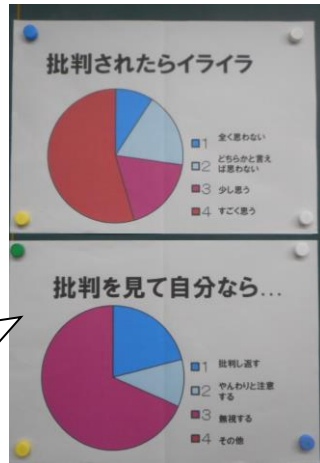
ケート結果をもとに、現状をつかむ。

- ・自分も同じ経験をした。
- ・そんなものか。

もてるようにする。

アンケートを用いた問題意識を高める導入

本時の内容に関するアンケートをグラフ化し、生徒の意識を視覚的に把握できるようにした。



意見交換しやすい座席の配置



互いに顔を見て意見交換ができるように座席の配置を「コの字」にした。

展開

2 教材「言葉の向こうに」を聞き、話し合う。

- (1) A選手を批判する書き込みを見て、加奈子はどう思っただろう。
- (2) 同じファンの人から自分の発言について注意されたとき、加奈子はどんな気持ちになっただろう。
- (3) 画面から目を離して、加奈子はどんなことに気付いたのだろう。(中心発問)

- ・腹立たしい。
- ・負け惜しみを言っている。
- ・勝手なことばかり言っている。
- ・何で私が責められるのだろう。
- ・悪いのは悪口を書いている人達なのに。
- ・仲間だと思っていたのに、裏切られた。
- ・自分が正しいと思って反論していても、他の人が見ると不快に感じることもある。

- ・喜びから一転、書き込みに対して怒りを覚える加奈子に共感させる。
- ・仲間だと思っていた人達に、逆に責められてしまう加奈子の思いに着目できるようにさせる。
- ・道徳ノートに自分の考えを整理してからグループで話し合わせる。

自分の考えを整理して書く活動



グループで話し合う前に、自分の考えを整理し、道徳ノートにまとめる時間を確保した。そのことにより、グループで自分の考えをもって話し合うことができた。

〈補助発問〉

心無い書き込みをするような価値観の合わない人とは関わりをもたない方がいいのだろうか。

- ・書き込まれた言葉の向こうの人のことを考えることが大切である。
- ・インターネットでのやり取りにおいても、面と向き合ってコミュニケーションを取るのと同じように、目の前の相手のことを思いやる必要がある。
- ・黙っていても、相手に自分の考えがきちんと伝わらないので、相手の考えも配慮しながら発言するのがよい。

- ・様々な考えを受け入れることで、ものの見方や考え方を広げられるように促す。
 - ・グループで考えを一つにまとめるのではなく、出た様々な考えを全体で共有する。
 - ・教師は、グループから出た考えに切り返しの質問を行い、生徒の考えをより引き出し、深められるようにする。
- ☆様々な立場の人の心の中につ

・お互いに分かり合おうとすることが大切である。

いて、友達の多様な考えを踏まえながら考えている。

ねらいとする道徳的価値についての考えを明確にさせる問い返し

- T : 画面から目を離して、加奈子はどんなことに気付いたのでしょうか。(中心発問)
- S : 加奈子は相手のことを考えてなかったなので、考えるべきだった。
- T : なるほど。同じような意見が出たグループはありますか。
- S : 相手にも自分と同じように心があることを忘れてはいけません。
- S : 中傷しあうのではなく、相手の気持ちを考えて話をするのが大切。
- T : **相手というのは、誰のことでしょうか。**
- S : 中傷のコメントを書き込んだ人。
- T : **他にもいますか？**
- S : ファンサイトを訪れる人。
- S : A選手のファンの人たち。
- T : **その人たちの気持ちを考えて話をするというのは、どういうことでしょうか。**
- S : 相手にも自分の言い分があると思うので、その事を考えながら発言すべき。
- S : 怒りをぶつけても仕方がないことなので、もっとお互いが気持ちよくなれるような言葉がけをした方がいい。
- T : なるほど。自分も相手も納得できるように話ができるといいわけですね。他の視点で意見が出たグループはありますか。
- S : ネットでのコミュニケーションは、相手と向き合うコミュニケーションと違い、顔が見えないから、言葉にも注意しなければいけない。
- S : 正しいことをしたつもりが、別の誰かを傷付けてしまっていた。
- S : 自分の怒りを相手にぶつけることしか考えていなかったけど、言葉の向こうに色々な人がいると考えると、自分の言葉が多くの人を傷付けてしまったのかもしれない。
- S : 相手を傷付けてしまいトラブルに発展してしまう可能性を考えると、中傷のメッセージを無視することができる心をもつことも大切。
- T : 別の誰かを傷付けてしまう、相手を無視する心という意見も出ましたが、では、**自分が同じようにパソコンやスマートフォン等を使っていたとして、SNSや掲示板に心無い書き込みをするような人とは関わりをもたない方がいいのでしょうか。**(補助発問)

発言の真意を他の生徒に伝えるための問い返し

ねらいとする価値に迫る問い返し

ねらいとする価値に迫るための考えを揺さぶる問い返し

- S : 加奈子のように発言することで揉めてしまうよりは、何も言わないでいるということも間違っていないと思う。
- S : 心無い発言をする人は、もしかすると相手を傷付けている自覚がないかもしれないから、相手が納得してくれるような気持ちをもって発言するのが良いと思う。
- S : 心無い発言とも取れるけど、言っていることはそれほど間違っていることでもないと思うので、冷静になって一つの意見として受け入れようとしてもいいかもしれない。
- S : 言葉遣いは悪いかもしれないけれど、話し合ったら自分の知らなかったことも知ることができるかもしれないので、関わりをもたないと決めてしまうのはもったいない。
- S : 私も自分が好きなバンドを批判されて腹が立ったことがあるけど、ただの悪口ではなくて客観的に見たら、そういう意見も考えられるなど思ったことがあるので、けんかしないように関わり方を考えて接すればいいと思う。
- T : 関わらないことでトラブルを回避できるという意見も出ましたが、相手には傷付ける自覚がないかもしれないので分かり合おうとすることが大切、相手の言葉も一つの意見として受け入れる、画面の向こうにいる相手のことを思い浮かべて関わり方を考えて接すべき、といった様々な意見が出ましたね。

3 自己を見つめる
 ・自分の生活を振り返りながら寛容な心で他者と理解し合うことについて、思ったことや考えたことを書きましょう。

・私も友達に好きな野球チームのことを悪く言われて、嫌な気持ちになったことがあった。そういう人とは関わらない方がいいと思っていたが、どうしてそういう事を言うのか聞いてみたり、友達が好きなチームについて話をしたりと、もう少し広い心を持って関わった方が明るく過ごせると思った。

☆自分の体験と重ね合わせながら、立場や価値観の違いを理解しようとする心、自分の考えだけでなく、他者から学ぶ姿勢、寛容の心について考えを深めている。

自分を見つめる書く活動



-----部は、自己を見つめていると見取ることができる部分

-----部は、生き方についての考えを深めていると見取ることができる部分

STEP 3 思ったこと・考えたこと

●教材や、友達・先生の話を自分の考えを深めること (A) B C

●学んだことをこれから中で大切にしたいと感じる (A) B C

●今日の授業は考えさせられた (A) B C

④ 道徳ノート1

私はネット上ではこういう経験をしたことがないけど、友達と会話をしているときに、「〇〇ちゃんが〇〇ちゃんのことを悪く言ってたよ」という話をしたとき言葉ど真ん中에서도自分として自分も相手のことを悪く言ってしまうことがあるので、これからは相手の気持ちも考えてそういうことはあまり言わないようにしていきたいなと思います。

STEP 3 思ったこと・考えたこと

●教材や、友達・先生の話から自分の考えを深めることができ (A) B C D

●学んだことをこれから生きて中で大切にしたいと感じた (A) B C D

●今日の授業は考えさせられた (A) B C D

④ 道徳ノート1

私は、今まで批判のメッセージは全て無視してきたけど、そのメッセージは相手への思いやりが伝わって、考えが変化した。自分で注意を多めに友達に送るのと、人を信じることは、みんなに気づいてほしいと思いました。自分とは3人が発見もたてた間では、期待できるような発見があり、とてもいい時間になりました。

終末

4 教師の説話を聞く。

・生徒の心に柔らかく届くように余韻を残す。

中学3年生の頃、9月に行われる体育祭に向けてクラスで話し合う機会がありました。大縄跳びの回数がなかなか伸びなかった私のクラスでは、「朝練習をした方がよいのでは」という意見が出ました。クラスの大半がその意見に肯定的だったため、朝練習は行うことに決定しました。ただ、「全員絶対に参加しなければいけないのか、自主的に参加するもので構わないのか」という点については意見が分かれました。私は絶対に参加すべきという立場で、「3年生だから部活動は引退したため、クラスの朝練習に全員が参加できるはず。体育祭を成功させるためにも絶対に朝練習に全員出るべき」と、自分の考えを主張しました。自主的な参加でよいという反対意見も出ましたが、体育祭の成功のためには自分の考えが正しいと信じ、譲りませんでした。

結局、朝練習は自主的な参加で行うことに決まりました。私には少し不満な思いが残りましたが、決まった事には従おうとも思いました。休み時間になって、司会を務めていた友人からこう言われました。

「僕、司会だから発言しなかったけど、朝練習が自主参加になってよかったよ。僕のお母さん、最近身体の調子が悪くて、妹や弟が保育園に行く支度は僕がやっているんだ。だから、全員参加に決まっていたらクラスでの居心地が悪くなっていたかもしれないよ。」

その話を聞いて私は「はっ」としました。私は他の人の立場や事情を全く考えていなかったのだと。だから、その友人の話を聞いてからは、話し合いをする時も自分の事だけでなく相手の事も考えて発言をするように心掛けるようになりました。

本時の板書



5 他の教育活動等との関連

特別活動	・講演会「携帯電話、SNSの利用について」 講師を招き、SNSの正しい使用について学習する。
英語科	・教材名「国際フードフェスティバル」 国際色豊かな会場での出来事を通して、「相互理解」の心を育む。
国語科	・教材名「星の花が降るころに」「大人になれなかった弟たちに……」 様々な登場人物の心情を読み取り、立場の違う人の考えを認められる心を育む。
事前指導	・帰りの会でアンケートを実施し、「相互理解や寛容の心」について生徒の実態を把握する。
道徳科	・教材名「言葉の向こうに」 立場の違う考えを尊重し受け入れることの大切さを理解し、寛容な心や謙虚な態度を育てる。
事後指導	・帰りの会で「私たちの道徳」のP.76『人物探訪』を読み、偉人から学ぶ姿勢を育む。
家庭との連携	・本時の授業内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でも謙虚に他者に学び寛容の心をもつことについて話題にしよう。 ・三者面談時に、学校生活や家庭での様子を共有し成長を認め合い、今後の学校生活が前向きに取り組めるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公の心の内を、友達の多様な考えを踏まえながら様々な視点から捉え、立場や考え方の違う人との関わり方について考えを深めている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・互いのことを分かりあおうとする相互理解、謙虚に他者から学ぼうとすること、寛容な心をもつことについて、これまでの体験を振り返りながら、自分との関わりで考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習活動

「加奈子が気付いたこと」について、小グループで自分の考えを出し合い交流した。さらにグループで話し合ったことを全体で共有する中で、教師が問い返し、多面的・多角的に考えられる展開を行った。「相手の気持ちを考えて話をした方がいい」という生徒の発言について、「相手とは誰の事か」「相手の気持ちを考えるとはどういうことか」と問い返すことで、生徒自身が新たに気付いたことから考えを深めさせ、クラス全体で共有することができた。

②自分との関わりで考える学習について

本時の学習を通して感じたことや考えたことについて、今までの自分を振り返りながらまとめた。動画サイトを見ていて同じような体験をしたことのある生徒や、ネット上でのコミュニケーションの難しさを感じたことのある生徒、自分の性格について振り返りながらコミュニケーションの取り方について考えた生徒等、自分の経験を踏まえて考える姿が見られた。また、多くの生徒が自分の体験を

振り返りながら、「これからは～」と、自分の今後の生き方について前向きに考えようとする記述も見られた。このことから、多くの生徒が自分自身の問題として捉えることができたと考えられる。

(2) 視点☆に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆様々な立場の人の心の内について、友達の多様な考えを踏まえながら考えている。

「加奈子が気付いたこと」について全体で話し合う中で、生徒からは加奈子以外、「ファンサイトを訪れる人」「A選手のファンの人」「心無い書き込みをする人」等、様々な立場になることにより、考えを深めることができた。また、「相手の気持ちを考えて発言すべき」「対面とネットでのコミュニケーションは難しさが違う」「思わぬところで他者を傷付けることがある」といった多様な考えを交流することができた。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆自分の体験と重ね合わせながら、立場や価値観の違いを理解しようとする心、自分の考えだけでなく、他者から学ぶ姿勢、寛容の心について考えを深めている。

自己を見つめる場面における道徳ノートの記述内容から評価を行った。価値観の違う他者と今までどのように関わってきたか、自分の経験をもとにした記述が多く見られた。また、本時の中で、考えを交流した内容を踏まえ、相手の立場を考え、広い心をもって他者と関わっていきたいと、多くの生徒が記述していた。